

Electric Vehicle Development Technology Exhibition

E V E X

電気自動車開発技術展

EVに携わるすべての関係者のためのEV専門展「電気自動車開発技術展（EVE X・イーベックス）2013」が9月25～27日までの3日間、東京ビッグサイトで開催された。同時開催の展示会と合わせ、3万3千人が来場。EVの製造や開発から普及、活用など新たな可能性が示された。

今回のEVE Xでは「さらなる普及へ。課題解決で拡がる活用シーン」をメインテーマとし「航続距離アップ」、「高効率化・信頼性向上」、「新用途提案」を重点キーワードとして掲げ、EVの普及加速へ向けた課題解決とEVならではの新たな活用を提案した。



キョウデンの小型EV「Renault X3」

超小型EVから最新のPHVまで

会場にはEVの実車展示コーナーが開設され、キョウデンの50万円以下の小型電気自動車「Renault X3（レナX3）」やホンダ「マイクログロミューター プロトタイプ」、日産「ニューモビリティコンセプト」などの超小型モビリティ、スズキの電動バイク「e・Lect's」が展示された。

キョウデンのRenault X3は100%電動トライク。通常免許で運転が可能なおえ、車庫証明は不要だ。最高速度は35^{キロ}で1充電走行距離は最大50^{キロ}と、ちょっとした移動には問題ない航続距離だ。また電力費も1^{キロ}あたり0・8円と経済的。オプションによってセカンドシート部は大容量のカーゴボックスや荷台にも変更可能で様々な用途に利用ができる。さらに災害時や停車時には蓄電池として利用でき、48V×80Ah蓄電池なら冷蔵庫で約27時間、パソコンで約38時間と、いざという時に活躍が期待される。

そのほかにBMW製の電気自動車「ActiveE」の展示およびそ

の車を使つてのTIMESカーシェアプログラムの紹介が行われた。BMW「Active E」では市販予定の量産型電気自動車導入のための社会実験を世界の主要国で実施している。この車両は今年12月31日までタイムズステーションイトシア、池袋、横浜山下町で利用が可能。

次世代自動車振興センターのブースでは、トヨタ「プリウスPHV」やホンダ「アコードPHV」、日産「リーフ」、三菱「アウトランダーP



インホイールモーターで走行するOVEC-ONE

HEV」、BMW「Active E」およびさまざまな充電器を展示。パネル展示では各都道府県で行われている次世代自動車充電インフラ整備ビジョン18件が紹介された。

また自治体と企業によるコンビジョンEV等の展示が多数行われ、大阪産EV開発プロジェクトでTGMYの「超小型EV用プラットフォーム・試験車」やおかやま次世代自動車技術開発センターで岡山県内部品メーカー等16社による「OVEC-ONE」などが注目された。

付加価値に興味を示す来場者

各企業・団体のブースごとにEV・PHVに利用する充電設備が展示され、様々な普通充電器・急速充電器が並んだが、ひと際大きく存在感を放っていたのは松井電器産業の「EV/PHV多機能充電タワー」。



松井電器産業のEV/PHV多機能充電タワー

同製品は普通充電器の機能を備え、カメラとLED照明が一体化した街路灯で、リーフやプリウスPHV、アウトランダーPHEV等の国産車だけでなく、テスラやsmartなどの輸入車にも対応している。

カメラでは無線LAN対応のウェブカメラを標準装備しており、ブラウザー経由でカメラを制御、映像を閲覧できる。さらに、動体センサーにより、カメラに写っている物体が動いた際に、静止画をSDカードに自動蓄積する。

充電器に付加価値をつけた同製品に来場者の多くが注目をした。

併催イベントでは「EV・PHVタウンシンポジウム—in東京」が行われた。東京都や経済産業省による次世代自動車に係る取組みや自動車メーカー4社の充電インフラ整備の共同推進についてなどの講演が行われ盛況に終わった。